

IV-15

危険意識による自動車交通事故防止対策について

岩手大学工学部 正会員 岩佐 正章
 岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
 岩手大学工学部 ○学生員 千葉 典也

1. はじめに

交通事故での全国の死者数は昭和63年より1万人を超え「第2次交通戦争」と言われる厳しい状況にある。免許人口の増加、高齢社会の到来、生活様式の変化による24時間都市化など交通事故の増加要因は一層拡大してきている。このような情勢を踏まえ、交通事故を減少させ、安全で快適な社会の確立は国民すべての願いであり、重要な課題である。

本研究は、盛岡市内において事故率の高い路線を選定し、その路線について地域住民の危険意識を調査して危険箇所を抽出し、その路線における交通事故防止対策を検討することを目的とする。

2. 調査地域および調査方法

本調査対象路線は盛岡市中心部から松園ニュータウンへ向かう市道の一部で、上田交差点から緑が丘小学校前交差点までの区間（4車線）である。沿道には、学校・銀行・郵便局・デパート・スーパー・その他各種公共施設があるため交通量が多く、特に朝と夕方は渋滞する。本路線の周辺地域は住宅地となっており、この路線に出入する小路による交差点が多い。平面線形は直線であるが、緩やかな縦断勾配があるために上りの場合、前方視界が悪く、また、冬期において発進時のスリップ、下りの場合、ブレーキングの際の逸走などの障害も起こりやすい。調査方法は、本路線の周辺地域の住民を対象に留め置き法でアンケート調査を行なった。調査の内容は対象路線の中で、事故が起こりやすいと思われる地点を被験者に指摘してもらい、さらにその地点において予想される事故の形態と要因についても回答してもらったものである。有効回答者数は603人（回収率75.4%）で、調査期間は平成3年11月11日～22日である。また、本路線の12時間交通量を測定し（測定期間は平成3年10月17日～29日）事故率を算出した。

3. 調査結果

本調査の対象路線の交通事故は平成3年中に121件（人身20件、物損101件）発生している。図-1にアンケート調査により抽出された、事故が起こりやすいと思われる地点とそれらの地点で実際に起こった交通事故の件数より算出した事故率の分布を示す。

4. 分析結果および考察

表-1に抽出された地点の危険意識率と事故率を示す。地域住民の危険意識より抽出された地点と、その地点での事故率との順位相関係数を求めると $\rho = 0.67$ （危険率5%）となり有意であることがわかる。また、事故件数との

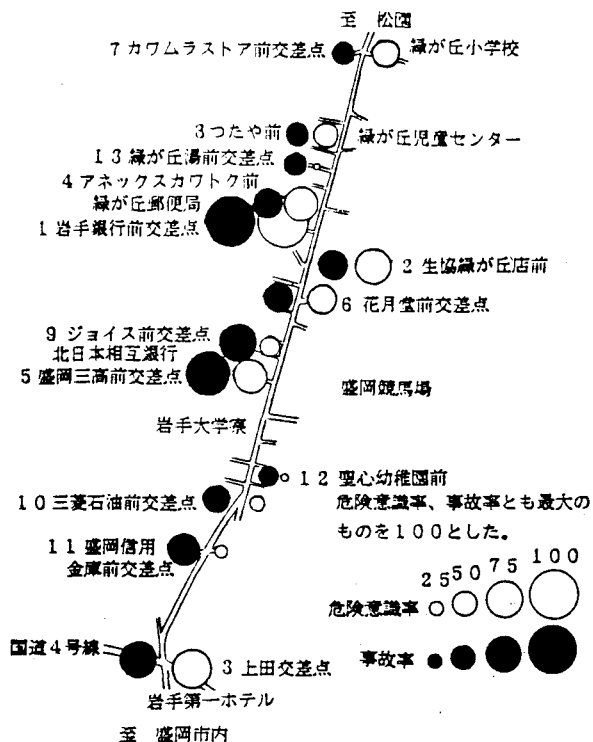


図-1 抽出された地点とその地点での事故率の分布

順位相関係数を求めると $\rho = 0.76$ となり
事故率よりも有意であることも興味深い。

表－1 抽出された地点の危険意識率と事故率

アンケート結果を全体的に見ると、危険性の
要因として乗用車のスピードの出し過ぎ、
自転車・歩行者のマナーの悪さ、立体横断施
設（歩道橋、地下道など）の不備、右左折車
線の不備、信号機の不備の指摘が多い。特に
自転車の高校生の、車道を並列走行したり、
信号無視をしたり、道路を横切って渡るなど
の行為に対する指摘が多かった。また、本路
線は朝の渋滞緩和のため、花月堂前交差点よ
り上田交差点までの区間が、午前7時より9
時のあいだ標識により中央線が移動し、市内
方向が3車線、松園方向が1車線となる。こ
れにより中央線が移動する間に道路を逆走する車両に対する指摘も多かった。

番号	地 点 名	指摘数 (人)	危険意識率* (%)	事故件数 (件)	1日交通量 (台)	事故率** (件/億台)
1	岩手銀行前交差点	293 (1)	48.8	11 (3)	24,369	123.7 (1)
2	生協緑が丘店	174 (2)	28.3	5 (8)	24,593	55.7 (6)
3	上田交差点	173 (3)	28.7	15 (1)	59,181	69.4 (5)
4	アネックスカワトク前	135 (4)	22.4	6 (5)	21,858	75.9 (4)
5	盛岡三高前交差点	127 (5)	21.1	12 (2)	31,711	103.7 (2)
6	花月堂前交差点	91 (6)	15.1	5 (6)	31,447	43.6 (8)
7	カワムラストア前交差点	76 (7)	12.5	2 (10)	20,927	26.2 (12)
8	つたや前	60 (8)	9.6	2 (10)	20,401	26.9 (10)
9	ジョイス前交差点	44 (9)	7.3	8 (4)	27,347	79.6 (3)
10	三菱石油前交差点	21 (10)	3.5	4 (8)	26,928	40.7 (9)
11	盛岡信用金庫前交差点	13 (11)	2.2	4 (8)	20,829	52.6 (7)
12	聖心幼稚園前	7 (12)	1.2	2 (10)	26,459	20.7 (13)
13	緑が丘前交差点	4 (13)	0.7	2 (10)	20,401	26.9 (10)

事故件数は平成3年中のものである。

カッコ内の数字は順位。

* 危険意識率＝指摘数／有効回答者数（603）×100

** 事故率＝年間事故件数×10⁸／年間交通量

次に、危険意識が高い上位5地点について問題点を述べる。

①岩手銀行前交差点 T字路で沿道が銀行・郵便局・デパートの駐車場入り口として利用されているため
交通量が多い。また、信号機がなく市内方面へ右折しづらく危険である。土地利用上、路上駐車する乗用車
が多く視界が悪化し運転しづらいことも問題である。

②生協緑が丘店前 買い物客が横断施設のないところを渡ることが多く危険である。また、乗用車の場合
駐車場に入りづらく、出る時も付近にバス停があるためバスが停車しているときは視界が悪く危険である。

③上田交差点 国道4号線と本路線との交差点で、交差形状が若干複雑である。また、乗用車が矢印信号
により右折・左折可能となってから歩行者用信号が青になるので、自転車・歩行者が安全に横断することが
できない。

④アネックスカワトク前 駐停車している乗用車が多く、通行の妨げになっている。また、歩行者用押し
ボタン式信号機が設置されているが、周囲の信号機と連動しているため待ち時間が長いので、信号を無視し
て横断する人が多く危険である。

⑤盛岡三高前交差点 高校生が信号を無視して横断したり、斜めに道路を横切ったりするため危険性が高
い。また、松園方面より来て右折する際に、右折車線がなく、右折用矢印信号も無いため非常に右折しづら
く危険である。

5. むすび

上記のことを十分に考慮した上で、信号機の新設・現示の改善、横断施設を設置することが望まれる。

本研究は、地域住民の危険意識より交通事故防止対策を模索することを目的として行なった。これにより
実際の事故データの分析だけではなかなか見えにくい部分も指摘され、より総合的に交通事故防止対策を講
じることができる。最後に本研究を行なうにあたり、資料提供等ご協力いただいた岩手県警察本部、岩手県
盛岡東警察署の方々に感謝の意を表します。

参考文献

1) 岩佐正章, 安藤昭, 赤谷隆一, 伯谷浩, 吉田和正: 地方都市における道路交通環境に関する研究－ドライ
バーの意識調査による危険箇所の抽出と事故防止対策について－, 日本都市計画学会論文集N o 26/A
p p 331～336, 1991